

塚本裕四郎氏を悼む

弔 辞

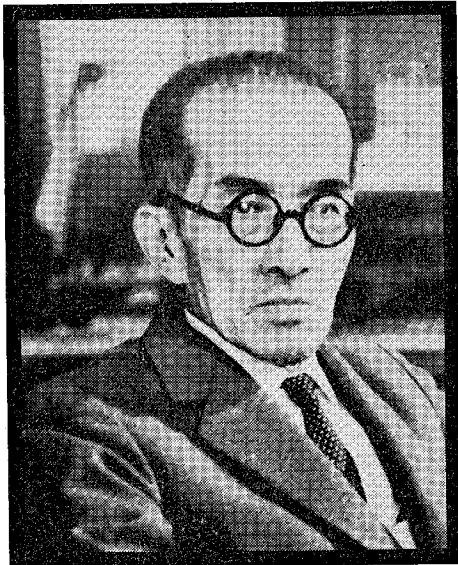
塚本裕四郎氏は長らく海上保安庁水路部において航海天文学、編曆天文学研究に従事され、私達は氏の主宰された編曆事業から多くの便宜を得てきました。その上昭和 27 年から 12 年もの長い間、評議員として本会の発展のために尽力されました。

このたび突然御逝去の報に接して誠に痛恨の思いに堪えません。

ここに本会を代表して謹んで哀悼の意を表します。

昭和 40 年 12 月 27 日

社団法人日本天文学会理事長
廣瀬 秀雄



故塚本裕四郎君の思い出

鏑 木 政 岐*

前海上保安庁水路部長塚本裕四郎君は、旧臘急病にて玉川病院に入院加療中のところ、約 1 週間後の昭和 40 年 12 月 20 日午後 9 時 50 分肺気腫のため急逝された。誠に痛惜の念に堪えない。私をはじめ塚本君を相知ったのは、大正 12 年 4 月東京大学理学部天文学科に入学したときで、当時私たちのクラスは秋山薫君、小野有一君、故秋吉利雄君、故窪川一雄君、故浜田恒一君を加えて総勢 7 人であった。大学 3 年間はおたがいに机を並べてよく勉強し、またときどきクラス会を開いて交友を暖めるなどして楽しい学生生活を送り、特に卒業前には一同にて湯河原・伊豆山への旅行をともにして別れを惜んだものである。

塚本君は、中学時代に 1 カ年間病気のため休学されたそうであるが、私たちには普通の健康体であるように思われた。昼休みの時間、私たちがスポーツを楽しんでいるとき仲間入りされなかったが、ときおり会合して学生らしい議論をしているときには、明快な意見を述べられ、知性的でしっかりした信念の持主であることがうかがわれた。彼は、また音楽を愛好し、フルート吹奏にかけては素人ばなれの名手であったが、晩年には健康上のためかあまり手にされなかったということである。

大学卒業の 2 週間ほど前のことと思うが、故平山信先

生に頼まれて、塚本君のところへ東京天文台に就職の意向があるかどうかを確かめに行ったことがあった。しかしどんな理由であったか忘れてが、天文台を志望されず、大正 15 年 4 月から 1 カ年間東京大学大学院に入学されて研究生活を送り、翌昭和 2 年 4 月当時の海軍水路部に就職された。

大正 15 年から約 10 年間私は三鷹天文台に勤務していたので、塚本君に会う機会は少なかったが、昭和 10 年 4 月麻布天文学教室に転勤して以来、ときどき彼の来訪をうけ、伊豆白浜で観測を続けている眼高差 (dip of horizon) の観測状況などのことについて話を聞かせて頂いた。海面に接する大気中でおこる光の異常屈折は航海天文学における最も重要な研究問題の一つであって、このために毎朝太陽が地平線上に姿をあらわす写真ととり続けたようである。塚本君の話によれば、太陽が地平線から姿をあらわす写真はいくらか扁平な楕円の形をするとは限らず、そのときどきによって複雑な形を呈しているということであった。この観測は年月をかけて続けられたので、この仕事をまとめられたならば、後世に残す不朽の業績となったことと信じて疑わない。しかし公務多忙のためになし遂げられなかったことを残念に思う。また、戦時中塚本君は簡易天体観測による軌跡航法を考え出されて実施に移された。この航法は今日でも近海漁業に従事する漁船が採用しているそうである。このよう

* 東大名誉教授。